

我が国における禁欲主義経営理念の一研究

— 駿河銀行創立者岡野喜太郎の場合 —

井 森 陸 平

初めに

戦後、アメリカの新興の産業社会学に興味を惹かれ、昭和三四年その解説ともいえる『産業社会学』を書くことになったが、その後我が国のことに関心が向かうようになった。初めは会社工場でモラル調査などを行なったが、その後地場産業の酒造の研究（昭和四七年『酒の社会学的研究—酒造業における技術革新と飲酒習慣』刊行）と並んで、日本経営史や伝記^①、社史等により、明治時代の指導的経営者の生涯や事業のことをしらべるようになった。渋沢栄一を初め、敬服すべき多くの人々に出会ったが、その中でも最も感銘を受けたのは、意外にも、地方の全国的にはそれ程大きいとはいえない事業の経営者、京都府綾部の郡是製糸の波多野鶴吉と、沼津の駿河銀行の創立者岡野喜太郎の生涯であった^②。その中波多野翁については、彼の経営理念が、娘の頃会社で働いた元女工達の家庭や村での生き方にどのような影響を与えたかを跡づけてみたいと思いたち、昭和四七年から八年にかけ綾部で実地調査を行ない、また結果の一部をまとめて、昭和五一年協力者倉橋重史、大西正曹氏との共著『経営理念の社会学的研究』を刊行する運びになった。

岡野喜太郎についても、同じ観点からの研究を思い立ったが、今度は元銀行員の人達よりも翁の出身地であり、また駿河銀行の発祥地でもある沼津市青野の人達に重点をおき、土地の人達の間に、翁の人柄や事業経営上の考え方がどのように受け取られ、学ぶべき手本とされているかをしらべようと志し、昭和四八年夏から数回にわたり現地で採訪調査を試みてきた。また、影響検出の必要上、比較対照の調査地として、地形産業等では青野に似ている近くの静岡県韭山町の金谷と、若干資本主義とは異なる面のある産業組合運動の先進地である、奈良県郡山市の発志院とを選び、昭和五一年から二年にかけ採訪調査を行なった。金谷は、幕末の太郎左衛門で著聞する江川家が久しく支配してきた、今日な

我が国における禁欲主義経営理念の一研究

お、江川家のために、七夕の川そうじ、井戸替えや歳末の煤はらいなどを村人が勤めるなど、旧来の主従関係のなごりのみられる特異な集落である。^③ 他方、発志院は、明治四四年、発志院信用組合の創設を出発点とし、後年産業組合県連会長や農林中金理事、全購連会長等を勤めるなど、戦前の我が国産業組合界の指導者であった、越智太兵衛の出身地であり、信用、販売、購買等はいまでもなく、早い時期に理髪、自転車修理や病院の組合経営に乗り出すなど、相互扶助の気風が著しく、この点で後述のように、家々の競争が極めて熾烈な青野とは対照的であるといえる。研究調査に際し、多大の御配慮御支援を忝うした方々特に駿河銀行秘書室長杉山龍夫、青野の庄司幸男、金谷の伊丹重雄、三枝昌、発志院の越智檜治、学友大昭和製紙副社長井上省三の諸氏に深甚の謝意を表する。また調査の実施を御手伝い頂いた仏教大学助教授大西正曹氏と、同学社会学部学生真部卓士、宮広則子、中村隆等の諸君に感謝する。

一 岡野喜太郎の経営理念の特質とその形成要因

(一) モデル、原型としてのプロテスタンティズム資本主義精神

明治二八年の昔、農家の茶部屋（製茶場）に根方銀行と印したのれんをかけ、行員といえば、頭取、書記、小使を兼ねた翁ただ一人という、今日の銀行の観念から期待されるところとは程遠いものから、一介の田舎紳士が権門や財閥にたよらず、独力で地方銀行ではあるが、一応天下に名の通った銀行にまで育て上げたことは驚嘆に値し、占領時代GHQの某銀行課長が草の根資本主義の典型として高く評価したと伝えられているのもさこそと思われる。かような外形上のこともさることながら、今一つの驚きは、拠るべき深遠な宗教教理や、精緻な哲学倫理説を欠くので、たとえ厳密な意味での経営理念とはいえずとも、銀行に限らず、広く事業の経営に当り、翁は終始一貫して独自の考え方、方針を堅持しており、しかもそれが内容において当時の日本人にはなじまないマックス・ウェーバーいうところの資本主義精神に極めてよく似ていたということである。ウェーバーは、そのいわゆる資本主義精神を、新教の一派、特にカルビン教徒の間で信奉されている独特の教理、すなわち人の死後の行くえが天国か地獄かは、予め神によって定められているという預定説から導き出し、これをかような神の厳しさに対する人間の側における心情的な対応と解している。^④ その内容は、一面では従来のキリスト教の営利行為の禁制がゆるめられたとしても、他面では、神が己に課し給うた責務として、忠実に職に励み、働いた結果を享樂することを思わず、ひたすら職に励むことを通じて、神の栄光を増そうと念じ、利子取

得等の営利行為は際限なく思いのままにまかせず、節度を守り、また資本の調達形成は節約貯蓄によるべきである、というものである。かような意味の資本主義精神は、無軌道な際限のない金銭欲のとりこになった山師的略奪的資本主義とは区別されねばならないのであり、この限りにおいて禁欲的とも称することができる。

ところで、ウェーバー著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の英訳者パーソンズは、資本主義精神を要約して、たゆみない合理的で、誠実な仕事ぶりといっているが、洵に要を得た解釈というべきであろう。なお、これに、ただ節約貯蓄するだけではなく、これを有利な事業に投資して、増殖を計ること、約言すれば営利的行為の、その己の享楽のためにではなく、神の栄光を増そうと念じる限りにおける正当化容認ということを附加するならば、一層精確な定義になるであろう。

以上をまとめて、敷衍するならば、資本主義の精神は、神から課せられた責務として、己が職業に励むこと、一層適切に言えば、楽しいことよりもむしろ苦役として仕事に従うべきこと、節約、時間厳守など、仕事やくらしを節度きまりのあるものにすべきこと、情実縁故の特殊な関係に動かされることなく、普遍的合理的な考え方に徹すること、山師的略取的行為は斥けるとしても、有利な事業に投資して財の増殖を計る営利行為の容認、働くのは享楽の資を得るためではなく、神から課された責務の遂行であり、さらには神の栄光の高揚のためでもあること等によって特徴づけられる。そして、苦役といい、節約といい、節度といい、享楽否定といい、一貫して禁欲的傾向の著しいものであると解することができる。

(二) 岡野经营理念の形成要因

1 精神的伝統と時代相

ところで、それに対しては賛否両論があるが、^⑦ともかくウェーバーは、かかる資本主義精神を新教教理から導き出された、その所産であると解し、西洋以外では自然発生のみられないものと主張する。しかるにプロテスタンティズム教理という、その因って生じる源泉のことを考慮の外におくならば、その内容においては、ウェーバー説くところの資本主義精神と、わが岡野翁の経営上の信条考え方との間には共通類似点が余

りにも多いことに驚かされる。そこで、これを根拠として、ウェーバー説を疑問視しようとするのではないけれども、西洋以外の国においてもウェーバー自身もいつているように、それは西洋だけに限られるが、自然発生的ではなくとも、事情の如何によっては、資本主義精神がモデルとして導入せられ、よく行われ得ることを示唆しようと思う。ソローキンも指摘しているように、儒教や仏教のように、資本主義の発展を助長するよりも、阻害する方向に作用する宗教教理や倫理の存する国では、その導入普及上の状況は不利であるのに対して、固有の宗教倫理体系を欠く我が国の場合は、この点有利な状況にあると考えられる。とりわけ岡野翁の場合には、いくらか土地柄、二宮尊徳の報徳主義との関係のある以外は、渋沢栄一における儒教、波多野鶴吉、森村市左衛門における正統キリスト教のように、既成の宗教教理や倫理とのかかわりからくる制約がないので、それだけ純粹、原型通りに、資本主義の制度や精神を受け容れることができたかに想像される。翁の場合、かように資本主義精神の受容に影響する不利な伝統的要因の存しなかったことは確かであるとしても、他方沼津在の一寒村に生れ育ったという、境遇から果たして西洋流儀の考え方、特に資本主義の精神に接して、これをよく理解し得たかどうかということが問題になる。伝記や社史だけをたよりとしての推定であるが、案外この点の裏づけができるようでもある。例えば父弥平太が、若い頃下田の奉行所の用人を勤めたというが、これから幼時、家で西洋人の習慣や考え方などが話題になったかと想像せられ、また自由民権、欧化の世相のなかで沼津中学校で英語や数学を学び、外人教師に接してもおり、さらに直接的には、我が国資本主義初期の自由競争主義に対応して、全国各地に青野だけではなく沼津（明治一三年設立の沼津銀行等）は勿論、隣村下椎路（岳南銀行）や近くの漁村片浜（片浜銀行）にまで、^⑤ 恰も雨後の筍の如く数多く出現した、資本の増殖、経済合理性、没心愴性、普遍主義等の点で、その制度的象徴ともみなし得る銀行を通じて、資本主義の精神に触れ、学び、影響を受けたであらうと推測される。

2 資質と生活境遇

しかし、他方同じように見聞きし、いな理解したとしても、これを受け容れ、行動の指針にするとは限らない以上、岡野翁が資本主義の精神に接し、これを実践の指針とされたのには、然るべき下地が存しなければならぬと考えられるので、暫くこの点を吟味してみる。先ず生来の素質はともかくとして、自意識、自我像が注目される。一般に、人が自分をどのように考えるかの自我像、特に幼時におけるそれは、性格と共

に、価値観、態度や意見以上に、人の一生の行動に影響するところが多い、とされているが、特に翁の場合にはこれがよくあてはまるようである。少年の時、何事でも人の手本になりたい、と決心したと翁は述懐しているが、この自覚自我像が一貫して翁の全人生行路を導き規定しているかに思われるのである。そして、昔からのしきたり、慣習には反するとしても、時代の要求に適うものであれば、西洋伝来の新しいもの、文明の利器を他に率先して受容採用するという限りについて、それは当面の資本主義精神の受容ともかわりがあり、その基盤温床をなすものとも考えられる。

次に、家業精励と節儉の面から検証を試みる。翁の生家は、村内の田地の約四分の一に当る一〇町を所有する地主であり、またその中の三町を自作する大農でもあったが、たまたま明治一七七年大飢饉に見舞われ、貧しい者は小作料を納めるどころか、一家の生活にも事欠く一方、地主も小作米がはらないのに、地租の上納の義務を果たさねばならないという苦境に陥った。これをみて、徴兵のがれのためということもあるが、当時在学していた韭山師範を決然退学して、翁は自家、ひいては村の復興に乗り出すことになった。家業の手伝いといっても普通ならば差配見廻り程度であるのに、翁は作男達と一緒に田畑に出て働いただけではなく、夕刻、村人の姿が野良には見えなくなってもまだ働き続けるという位に、人一倍仕事に励んだ。何分、沢山の小作を抱える地主であるので、一家の安泰は自分だけの働きによっては確保できず、小作人など村人の努力に俟たねばならないので、明治一九年村人に呼びかけて、月一〇銭掛積立の貯蓄組合を結成した。その目的は、当時の技術水準では、農業収入は年の豊凶により左右されることが多く、人力によっては如何ともなり難い以上、当時男子一日の賃金が一〇銭であった、日雇など農外労働をして、収入を得、これを貯蓄して不時の用に充てさせようというものであった。ここまでは、いわゆる勤儉の風であって、いつの時代、どこでもみられる常則であり、当面の場合それ程意義のあるものではない。尤も同じく貯蓄といっても、無駄を省いて貯えるというよりも、余分に働いて貯えるということに重点があったということは注目されねばならない。

翌明治二〇年結成の共同社の場合は、最初のものが積立金を年三歩の低利で郵便局に預ける、という式の専ら不慮の事故に備えるためのものであったのに対して、掛金の額も、さきには極めて零細であったのとは異なり、五〇銭とかなりになったのみならず、確実な抵当をとり、二割近くの高利で、積立金を産業資金などに貸し出すという、従前の備荒貯蓄式のものから資本増殖の意味の濃いものに変容するに至っている。また、貸出しの相手方として、組合員が除外されていることが注目されるが、これは組合員の大部分を占める親戚知人にまつわる親近な関係と、

金銭に関する合理的・打算的な関係との矛盾衝突を予め回避しようとする意図に出づるものと解されるが、ここらあたりに「翁には情実がなく、貸したら親戚も知人もない」という評言からも察知される、後年の翁の資本主義的な冷厳な態度の萌芽といったものが看取されるであろう。ところで、共同社のかような特異な規定が、翁生来の資質に因る発想であるか、それともその頃既に、沼津には銀行もあり、見聞きし、西洋の金融規定などから示唆を受けた結果であるか、いずれともはっきり断定され得ないが、しかし後年翁が資本主義精神の見事な体得者となるに至った原初的な端緒をなすものとみなし得るであろう。ちなみに、共同社は、約九〇年後の今日も、創立当時の組合員一六人の二、三、四代目の後継者により、毎年一月、青野の駿河銀行支店で会合議事が持たれるなど生き続けており、さらに驚くべきは、翁の経営理念の影響感化の跡が、これら子孫の方々の間に鮮やかに看取されることが実態調査により知り得たことであるが、これについては後段詳述する筈である。

上述のように、その内容において、西洋資本主義の精神に極めてよく似ている翁の経営理念の形成要因については、翁の生来の性向や生活境遇が比較的その受容に有利なものであった上に、当時の主要産業たる製糸業や紡績業以上に、資本主義の制度精神の典型に近い、金融銀行業に、翁が早くから従事し、これに専心した結果であると一応いえるが、しかし他方、それが、西洋における如き、新教教理とのかかわりは論外としても、いかなる宗教教理、いな無体系の素朴な信仰とも無関係であるかどうか問題になる。実は、共同社関係の家柄で、一時翁の下で銀行員を勤め、現在は製紙業を営み、所得の半分は貯蓄するという位大変な翁の崇拜家で、万事翁を手本としてくらししている人が、自分は毎朝五時に起き、氏神やお寺を初め、村内の神仏を巡拝するのを日課としているが、先祖を敬わない者は決して成功できないと断言されたことが感銘深く、いつまでも頭に残っており、これを手がかりとして、次のような発想が出てくるようになった。氏の場合のように、翁への真摯な傾倒私淑を通して、資本主義精神を本当に体得している場合には、たとえ本来のプロテスタンティズム信仰でなくとも、何らかの宗教信仰の支え、動機づけが必要ではないかと考えるようになり、そこでこれを調査データに即して確かめることになったが、その詳細は後段に譲ることとする。

注

- (1) 土屋喬雄『續日本経営理念史』、日本経済新聞社、昭和四二年。
- (2) 橋本求『岡野喜太郎伝』、岡野喜太郎翁壽像建設会、昭和二七年。
- (3) 江川家管理者伊丹重雄氏談
- (4) 昭和七年陸軍特別大演習の際、発志院信用組合は櫃原神宮、龍田、広瀬神社等と共に侍従差遣にあずかる。伝記編纂委員会『越智太兵衛伝』、昭和四六年、

七六頁。

- (5) Max Weber, Die protestantische Ethik und der Geist des Kapitalismus, Gesammelte Aufsätze zur Religionssoziologie, I, J. C. B. Mohr, 1947, S. 105. 梶山力、大塚久雄訳、マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』下巻、岩波文庫、昭和四九年、四九―五〇頁。
- ―, Religionssoziologie, Wirtschaft und Gesellschaft, I, J. C. B. Mohr, 1956, S. 278. Reinhard Bendix, Max Weber, 1966, p. 60.
- (6) Talcott Parsons, The Structure of Social Action, 1937, p. 515. なおウェーバー原著の訳書は、Max Weber, The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism, 1930.
- (7) ウェーバーの資本主義精神の宗教起源説については、トニーの如き史家によっても評価されているが、(R. H. Tawney, Religion and the Rise of Capitalism, 1922, pp. 102―132) 他方プロテスタンティズムは、資本主義の発達に伴う、宗教側の対応変容に他ならない、とみる批判説も出ている。例えば、Kurt Samuelson, Religion and Economic Action, 1957. Pitirim Sorokin, Contemporary Sociological Theories, 1928, pp. 694―696. なお早い時期にフックスの『市民・資本主義社会の精神』(Bruno Archibald Fuchs, Der Geist der bürgerlich・kapitalistischen Gesellschaft, 1914) と同じ内在的批判書も出ており参照したことがある。
- (8) 駿河銀行七〇年史編纂室『駿河銀行七〇年史』、昭和四五年、一八〇、六二七頁。
- (9) 『岡野喜太郎伝』、五三頁。
- (10) 同書、二九三頁。
- (11) 駿河銀行秘書室長杉山龍夫氏談。

二 村人の描く経営者岡野喜太郎像

(一) 調査の設計

以上では伝記社史や記録により、一応岡野喜太郎の経営理念を素描したが、次に社会調査の手法により、村人のみるところから翁の人柄や経営理念がいかなるものであり、またその影響がどのようなものであったかを明らかにしたい。調査の設計についていうと、翁の本拠たる青野では、翁と密接な関係のある共同社所属の一六戸の現世帯主を中核とし、残りは五〇歳以上の男子世帯主の中から五分の一を無作為抽出して、調査対象とした。初めの予想では、青野の人々は、共同社関係の人達はいうまでもなく、皆翁に対して尊敬と私淑の念をもっているであろうと考えたのであるが、実際には、一部の人々が批判的反撥の態度をもち、一派をなしているかに推量されるようになった。従って以下の分析では、共同社関

我が国における禁欲主義経営理念の一研究

我が国における禁欲主義経営理念の一研究

係の人と一般の人々に対比して、この種の人々を別個の群にまとめ、それぞれ共同社、私淑派、反撥派、略してA、B、Cと称することにした。調査の中核である経営理念検出のための調査表は、アメリカの同じ類いの調査項目表から当面問題の資本主義精神の諸次元要素と関連のある二五を選び作成した。採訪調査は昭和四八年夏から初めたが調査表によるものは、昭和五一年八月と十月との二回実施した。有効回答数はA、B、C群それぞれ一〇、一五、七である。

なお、同じ資本主義の体制内にあるとしても、自由競争主義に則る岡野翁の経営理念の特色を検出するために、これとは対照的な相互扶助・協同主義に基づく、前記越智太兵衛の経営理念と比較考察することにし、その本拠たる奈良県郡山市発志院で、昭和五二年一月調査を実施した。調査サンプルは二分の一無作為抽出の男子世帯主であり、有効回答は八人であった。この一群を前記A、B、C群に対比してE群と呼ぶことにする。同じ目的から、静岡県韭山町金谷で、青野と同じ時に調査を実施したが、調査対象は、母集団の三分の一の無作為抽出サンプルであり、有効回答は一〇人であり、この群をDと呼ぶことにする。

(二) 調査結果の内部分析

共同社以外の村人の中から、特にC群を区分したデータは、主に追憶感銘度に関するものである。翁のことを思い出すことがあるかの問いに対し、よくあるというのがA、Bではそれぞれ七〇%、四〇%であるのに対しCでは約一四%、それもよい思い出はないというものであり、また翁のことで感銘したことがあるかでは、答えた者ではA、Bは今も夢にみる、親身になって皆のためを思った、意気地のある努力家など、殆んどよい意味のものばかりであり、無回答はそれぞれ二〇、四〇%程度であるのに対して、Cでは七一%の大部分が無回答であり、僅かな回答者の半数が悪い意味のものである。

さて、主題に戻り、青野の人々によって、岡野翁像がどのように描かれているかをみると、第一表にまとめた如くであり、大体伝記社史等の文献から知り得たところと一致する。それぞれ共同社、反撥派に該当するA、C群の描く岡野像がよく似ているのに、私淑派のB群だけが他と際立って違っているのは意外にも思われる。上述のように勤儉貯蓄と借金投資営利という一見矛盾したものがよく斉合するところに、資本主義精神の特質が存するのであるが、この特質の具現とみなされる翁の経営理念は、普通には仲々理解し難く、このことはとりあえず上述の無回答

第1表 経営者像判定による村人の自我像と岡野（越智）翁像

| 判定項目 | 比較対照群 判定対象 | | A（青野の 共同社） | | B （同私淑派） | | C （同反撥派） | | D 金谷 | E （発志院） | |
|--|---------------|-------|---------------|------|-------------|-------|-------------|-------|---------|------------|-------|
| | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 自分 | 越智翁 |
| (1) 約束の時間を守る。 | 80.0 | 100.0 | 100.0 | 81.3 | 83.3 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| (2) 将来に備える。 | 90.0 | 100.0 | 81.3 | 81.3 | 83.3 | 100.0 | 63.6 | 71.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| (3) 遠慮なく金儲けをする。 | 20.0 | 70.0 | 31.3 | 81.3 | 28.6 | 83.3 | 18.2 | 14.0 | 13.0 | 13.0 | 13.0 |
| (4) 有力者と上手につき合う。 | 30.0 | 70.0 | 62.5 | 62.5 | 14.3 | 71.4 | 18.2 | 29.0 | 75.0 | 75.0 | 75.0 |
| (5) 計画をする時、人と議論してその意見によって自分の考えを変える。 | 60.0 | 50.0 | 31.3 | 18.8 | 14.3 | 33.3 | 54.5 | 86.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 |
| (6) 問題の解決のためには、争いをも辞さない。 | 30.0 | 80.0 | 25.0 | 50.0 | 42.9 | 0.0 | 45.5 | 29.0 | 14.0 | 14.0 | 14.0 |
| (7) 趣味道楽をやめ、節約した金を家の建築などに廻す。 | 70.0 | 100.0 | 43.8 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 36.4 | 43.0 | 43.0 | 43.0 | 43.0 |
| (8) 新しいものに接すると、人より先にやってみる。 | 50.0 | 40.0 | 31.3 | 43.8 | 42.9 | 83.3 | 9.0 | 29.0 | 57.0 | 57.0 | 57.0 |
| (9) やり慣れたことよりも、新しいことに魅力を感じる。 | 30.0 | 70.0 | 43.8 | 43.8 | 28.6 | 50.0 | 9.0 | 71.0 | 57.0 | 57.0 | 57.0 |
| (10) 親戚や友人の情にひかれて、規則をまげない。 | 50.0 | 70.0 | 43.8 | 56.3 | 33.3 | 50.0 | 0.0 | 57.0 | 57.0 | 57.0 | 57.0 |
| (11) 成り行きにまかせず、積極的に乗り出し、自分の望むものを得ようと努める。 | 40.0 | 80.0 | 37.5 | 62.5 | 33.3 | 83.3 | 45.5 | 57.0 | 43.0 | 43.0 | 43.0 |
| (12) 人の先頭に立って活動する。 | 50.0 | 100.0 | 25.0 | 68.8 | 50.0 | 100.0 | 54.5 | 43.0 | 57.0 | 57.0 | 57.0 |
| (13) 有利であるなら、自分の金だけでやるのではなく、借金することも辞さない。 | 20.0 | 90.0 | 12.5 | 46.2 | 0.0 | 50.0 | 18.2 | 14.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| (14) 同業者より一割高い値段で売るよりも、一割安い値段で売るようにする。 | 60.0 | 50.0 | 25.0 | 31.3 | 14.3 | 16.7 | 36.4 | 29.0 | 14.0 | 14.0 | 14.0 |
| (15) 昇進には年功よりも成績の方を重視する。 | 40.0 | 60.0 | 53.3 | 53.3 | 83.3 | 83.3 | 54.5 | 14.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

備考：数字はいつも、大抵、時折、めったにない、全くないの答え方のうち、いつもと大抵との合計の％である。

| 判定項目 | 比較対照群 判定対象 | | A(青野の 共同社) | | B (同私淑派) | | C (同反撥派) | | D 金谷 | E (発志院) | |
|--|---------------|-------|---------------|-------|-------------|-------|-------------|------|---------|------------|-----|
| | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 岡野翁 | 自分 | 自分 | 越智翁 |
| (16) 高齢にならねば重役になれない 大会社に勤めるよりも、小さく とも独立して自分で事業を営む | 60.0 | 90.0 | 50.0 | 87.5 | 83.3 | 83.3 | 36.4 | 57.0 | 75.0 | | |
| (17) ただ金のためではなく、事業の 成功の喜びと誇りを目ざして働 く。 | 40.0 | 60.0 | 75.0 | 81.3 | 66.7 | 66.7 | 81.8 | 86.0 | 75.0 | | |
| (18) 何事も満足な結果が得られるま で、仕事の虫になって働く。 | 70.0 | 100.0 | 82.4 | 82.4 | 100.0 | 100.0 | 90.9 | 86.0 | 75.0 | | |
| (19) 郷土や国家の福祉繁栄に貢献し 人々に感謝されるような仕事を 目ざして働く。 | 50.0 | 70.0 | 75.0 | 100.0 | 57.1 | 50.0 | 90.9 | 86.0 | 86.0 | | |
| (20) 感情を害わないで、人を改めさ せる。 | 60.0 | 40.0 | 75.0 | 37.5 | 50.0 | 16.7 | 63.6 | 57.0 | 75.0 | | |
| (21) 何ともしようのない位大きな冒 険は避ける一方、安全確実一点 ばかりでもなく、多少の危険の伴 う事態を却って力をためす機会 として利用する。 | 30.0 | 60.0 | 43.8 | 68.8 | 0.0 | 66.7 | 45.5 | 43.0 | 0.0 | | |
| (22) 遠方のなじみのない人達の間 にまじってでも、見込のある仕事 なら見つけ次第どこへでも働き に行く。 | 40.0 | 90.0 | 50.0 | 75.0 | 0.0 | 66.7 | 27.3 | 43.0 | 14.0 | | |
| (23) 人よりも自分のために、自分の 欲することを人にやらせる。 | 20.0 | 70.0 | 25.0 | 56.3 | 28.6 | 50.0 | 27.3 | 14.0 | 14.0 | | |
| (24) 金をためるだけではなく、有利 な事業に投資する。 | 40.0 | 100.0 | 50.0 | 68.8 | 0.0 | 100.0 | 27.3 | 57.0 | 43.0 | | |
| (25) 現世がいかに醜く暗かろうとも 成り行きにまかせず、出来得る 限り改善に努める責任があると 考える。 | 60.0 | 60.0 | 75.0 | 75.0 | 60.0 | 50.0 | 90.9 | 86.0 | 86.0 | | |

が比較的多いことから推測されるように、翁とは余り身近かではなく、考え方にも通じていないと思われるB群にあてはまるといえる。これを経営理念像描写の測定項目に即して説明すると、表のようにAとC群では人の先頭に立つという指導者気質は当然として、約束の時間を守る仕事の虫、将来に備えるという勤儉貯蓄と同時に、一見これとは余り関係のなさそうな投資が、同じく一〇〇%と首位にあるが、他方B群では、郷土や国家の福祉繁栄に貢献するという公共心と独立自営とがそれぞれ一〇〇%、八七%と首位にある一方、仕事の虫、将来に備えるの勤儉貯蓄が八一%で三位に下ったのはとも角として、A、Bでは首位の投資が六八%と一段と下っていることに注目される。その理由は、B群が翁とは身近かでないので、湿田の干拓など村のために貢献した指導者、村第一の成功者といったことだけが大きく浮び、翁特有の資本主義的精神などは到底理解しにくいためである、と解釈される。同じく注目されるのは、有利であるなら自分の金だけでやるのではなく、借金することもある、約言すれば、資金を借りても、利潤を得るという資本主義的考え方は、翁の身近かにあるA群ではさすがに九〇%と二位にあり、またC群でも五〇%と減ってはいるが、まだ中位にあるのに対して、B群では四六%ではあるが、順位からはずっと下り、下位に近いということであり、これも以上と同じように説明できると思う。この点よりすれば、我が国の伝統的思想とはなじまない、己が職業に励み、節約貯蓄に努めるだけでなく、これを有利な事業に投資し、いな資金調達のためには借金をも辞さないという、約言すれば、勤儉と営利とを兼ねた岡野翁に特徴的な資本主義的経営理念は、翁とは身近かで嘗つての共同社運営の経験などを通じて、案外、土地の一部の人達には理解されていたといえるであろう。

注目される今一つは、遠慮なく金儲けをする、という項目であり、一見資本主義的態度と関係があるようにも思われるが、さきの投資や借金とは様変わりして、C群は八二%、B群は八一%とそれぞれ二位と三位の高い順位にある一方、A群は七〇%で、四位に下っていることである。これについて一考すると、元来この金儲けという項目はいかようにも解釈でき、一方ではC群のように、翁に対して好意的でなく、反探的な人達にとっては、手段を選ばず、私利を追求するという資本主義理念以前の商売人根性と解せられ、また悪意はなくとも、翁の人柄や考え方によく通じない。従って資本主義的精神の冷徹合理的側面を理解し得ないB群にも同じく、翁が銀行マンであるところから、金貸根性と受け取られるのに対して、A群では一部分好意的態度が強いこともあるが、翁の考え方に対する理解が深いだけに、これを単に商売人根性とだけみるのではなく、貸借関係では親戚、友人もないという情実に左右されない、冷徹な資本主義的態度とも解されているものと考えられる。なお、こ

のことは親戚や友人の情にひかれて規則をまげない、という資本主義精神の没心情的、普遍合理的な一面がA群では金儲けと同じく七〇%で中間にあるが、一方B群は五五%、C群は五〇%とかなり見劣りがすることによっても裏づけられるであろう。今一つ興味のあるのは、趣味や道楽をやめ、節約した金を家の建築などに廻すというのが、A群では一〇〇%と首位にあるが、他方B、C群では同じく五〇%と半減していることであるが、これは家を建てるということは、一時の欲望に駆られて、飲食や遊山に金を散じてしまうのではなく、たとえ投資のように資本の増殖というのではないとしても、長く後に残こすというものであり、この意味で資本主義的精神の禁欲的な面ともつながりがあるものとみることができ、従って翁の考え方に対する理解の深いA群の人達によって特に考慮されるようになったものとも考えられる。

(三) 越智太兵衛との比較考察

次には、上述の内部分析から進んで、競争主義に基づく岡野経営理念に対照される協同・相互扶助主義に則る越智太兵衛の経営理念について、地元発志院の村人のみるところとの比較考察により、問題の一層の解明を試みたい。先ず目につくことは、発志院の越智翁においても、表のように、約束の時間を守ると共に、将来に備えるというのが青野のA、C群と同じく首位にあることであるが、これは、越智翁の場合も岡野翁と同じく、当初飢饉後の村の復興更生をきっかけとして、社会活動を初めたという事情があり、勤儉貯蓄ということが強調されるのは容易に理解される。郷土、国家の福祉繁栄に貢献し、人々に感謝されるような仕事を旨として働くの項目では、二人の間にかかなりの差が認められる。越智翁では一〇〇%と首位にあるのに対し、岡野翁の場合は、翁に対する認知度が劣り、土地の功労者という程度のことしか知らない者も少なくないB群では、この公共心が首位にあるとしても、認知通曉度の優る群では、様変わりしてA群は七〇%、C群は五〇%とやっと中位を保つ程度である。これは、二人の活動分野に対して、世人がもつイメージの違いによるものであり、組合活動と一身一家の繁栄とは直接には結びつかない一方、金融銀行業といえば、実際にも、岡野の場合、晩年には小作米二千俵の大地主であったが、一家の財産作りなどを連想し易いためであると考えられる。また、現世がいかに醜く暗かろうとも成り行きにまかせず、出来得る限り、改善に努める責任がある、と考えるの項目からみると、かような両者の相違が一層判然とする。社会改良となると、E群は首位に近いのに、B群でも七五%に減り、A群とC群ではそれぞれ六〇、五〇%と少なく、下位に近い。その理由は、越智翁の専心する産業組合活動では、資本主義の根幹である自由競争、適者生存の原理に

対して、内実はとも角、表面は相互扶助・協同の原則が提起強調されるのに対して、岡野の銀行業は、資本主義一辺倒で、現体制の改革を連想させるようなものでは全くないからであると解される。この活動分野の原理的対立を反映して、岡野の場合、首位から上位にあった投資金儲け借金の資本主義的営利観念の指標である項目が、越智では四三％を最高として一三％、〇％にまで激減することが確かめられる。なお、興味のあるのは、感情を害わないで人を改めさせるの項目で、意外にも、岡野では四〇％内外から一六％と最下位ですらあるのに対して、越智では七五％と中位にあり、差が際立っていることである。これは、二人の性格の違いのこともあるが、各々の活動分野の基本原理につながる、一方の適者生存、優勝劣敗からくる心の細やかさの欠如、心の荒れに対する他方の相互扶助・協同原理に伴う、他人へのねんごろな心遣いの反映とも解されるであろう。また、計画をする時、人と議論をして、その意見によって自分の考えを変えるの項目でも、同じく成程、翁のことをよく知り、万事好意的にみる共同社系A群では、順位は最低ながら五〇％であるとしても、他の群では一〇％台で最下位にあるのに対して、越智では、数値は五〇％ながら中位にあり、両者の間にはかなりの差が認められる。このこともさきの場合と同じく、一部分、頑固か、物分かりがよいかなどの性格の違いにも因る面もあるが、やはり二人の活動の世界の基本的原理に対応する、一方における適者生存から派生する独善的態度に対する他方における相互扶助・協同原理に基づく助け合い、譲り合いの精神から我意を通さず、正しければ相手の意見を容れることにもなるためと解釈される。

村人の描く岡野像を終わるに当り、今一つのことを附言したい。或る家では、共同社結成以来の長い付き合いであるのに、意外にも岡野翁に對して、必ずしも私淑的であるといえないような感じを受けたが、少しく社会学的解釈を試みてみよう。接触が増す程、親しさが増すというのが通則であるが、上下の間柄では接触が一定の限度を超えて増えると、上位者に対する尊敬の念が薄らぐという関係にあり、従ってなれなれしくして軽んぜられないようにするため、上位者は、下位の者とは常に距離を保たねばならない、という説があるが、^⑨丁度この社会学的理論がたまたま耳にした内輪話などから推すと、当面の場合にあてはまるようである。

注

- (1) David C. Mc Clelland, *The Achieving Society*, 1961, pp. 94—497. John Rauer, *Toward a Questionnaire Measure of Need Achievement*, *Human Relations*, Dec. 1972.
- (2) George C. Homans, *The Human Group*, 1951, p. 247.

我が国における禁欲主義経営理念の一研究

三 岡野経営理念の村人に与えた影響

(一) 村人の自我像からみた考え方への影響

紙面の制約により、十分意をつくすことができず、遺憾であるが、岡野翁の経営理念がいかなるものであったかを、その村人に与えた感化影響の面から解明吟味したい。検出方法としては、岡野像の場合と同じ、調査項目表を使用してしらべた村人の経営者としての自我像に関するデータの分析によった。村人の自我像の概略を示すと第一表の通りであり、これから青野の三群の人達や、比較対照の韭山金谷、奈良発志院の人々の経営者としての自我像が読みとられるが、一見して岡野翁では約束の時間を守る、仕事の虫、将来に備える等の勤儉思想が首位にあるのを初めとして、借金、金儲けの営利観念も上位にあったのに対して、これら各々の村人にとっては、約束の時間を守る仕事の虫、将来に備える等は、大体いずれも最上位にあるが、他方借金、金儲けはいうまでもなく、投資さえ最下位かこれに近いところにあることが明らかになり、これから勤儉と営利とを兼ねた翁の経営観念が、いかに我が国の一般の人々にはなじまない、特殊のものであるかが実証されると共に、翁が容易には学び得ない資本主義精神の真髄を本当に自分のものにしていたことは評価するべきであろう。かような特殊性があるに拘らず、翁の経営者としての言行が村人に与えた影響には見逃せないものがある。

まず、将来に備えるというのが、A群だけで首位にあることに注目されるが、これは上述のように現在にも及んでいるが、長年にわたり、この群の人々と翁とを結びつけた共同社は、貯蓄を目的とするものであったことから、さこそとうなずかれるであろう。また、道楽などをやめて、節約した金を家の建築に廻すというのも、他では概ね四、五〇%台であるのに、A群では七〇%と三位にあることが注目を惹くが、得たところを一時の享楽に費消せず、家のような物にして、後に残すというのは、その遠慮禁欲の点で、資本主義精神につながるものであるだけに、翁に最も身近な共同社の人達によって重視されるのは、強ち不自然ではないように思われる。

なお、A群以外の他の群について、それぞれの特色とみられるところを手がかりとして、考察を試みてみる。B群については、投資が五〇%で中位にあり、E群を除けば、D群の二七%、C群の零に比べて際立って多いことに気づかれるが、これは、商工業を営む者が比較的多いため

もあるとしても、青野における翁の私淑者であるだけに、その特色とする考え方から影響されることも多いためと考えられる。C群は、青野における翁への批判反撥者であるので、借金だけではなく、投資さえ零であるなど、反営利的であるのは予想通りであるが、しかし他方、仕事の虫、独立自営はそれぞれ一〇〇%、八三%で、それぞれ一、二位にあり、その中特に独立自営は、A群以外の他の群で三〇%から四、五〇%台であるのと著しい差が認められるが、これは、一部分本来の性向にも因るであろうが、他面また反撥心から相手の得意とするところ以上に出てやろう、という意気地、競争心の現われともみなし得るであろう。

次に、青野と比較対照のD、E群についてみると、村の指導者が、それぞれ銀行家、殿様、組合活動家であったのに対応して、村人の自我像も異なるように思われる。どこでもそれ程違わない。約束の時間を守るを除けば、青野では、概ね将来に備える仕事の虫の勤儉思想と共に、投資程度の営利心が特徴的であるのに対して、金谷と発志院では郷土国家の福祉繁栄への貢献と現存社会の改良革新への関心意欲の公共精神で際立っているといえる。他方、両者の相違についてみると、金谷では、新しいものに接すると、人より先にやってみると、やり慣れたことよりも新しいことに取り組むことに魅力を感じるが、いずれも九%で、最下位にあるのに対して、発志院では新しいことを人より先にやるはとも角として、新しいことへの魅力は七一%と三位にあることに気づかれるが、これは中世以降久しい間、江川家によって支配されてきた土地に残る保守的な精神的風土と、資本主義体制に対する批判改革としての産業組合運動の全国的進歩的気風とに、それぞれ対応するものといえるであろう。今一つ、他人の意見をきいて自分の考えを改めるでは、他群では一四%から最高六〇%どまりであるのに対して、発志院E群では八六%と首位に次ぐ地位にあることに注目されるが、これは、長年傑出した組合運動指導者の本拠であっただけに、独善狭量ではなく、協調謙讓の気風が育ったことの現われとみなし得るであろう。

(二) 行動からみた影響

以上では、村人の自我像に関するデータを資料として、岡野経営理念の影響をみてきたが、次には観念態度、考え方ではなく事実行動、生き方の側から考察吟味したい。予め結論をいうならば、これまで述べたところが若干の例外を除き、概ね事実によって裏づけられるといえる。先ず、岡野経営哲学の中核を成す勤儉、禁欲主義の面から検証してみる。職業構成をみると、同じような事情にあるE群を除けば、A群では專業

農家が七割で、他を大きく引き離している。これについては、共同社所属の農家の代々の人々が安易な途に走らず、先祖相伝の、とりわけ労力の要る畑作を主とした農業を固く守り続けてきた限りにおいて、岡野翁が見事に自分のものとした資本主義の禁欲的態度につながるものがあるといえるであろう。また、専農のため所得は、E群以外の他に比べて格段に少ないに拘らず、年間の貯蓄率は、第二表のように貯蓄しないや一〇%未満は皆無である反面、二〇%以上が約六六%と多く、中には五〇%というものもある位、貯蓄に励んでいる共同社A群には、他ならぬ、岡野翁の禁欲主義経営理念が今に生き続けているといえるであろう。なお貯蓄率では、私淑派B群もA群に劣らない位、他に際立っているが、これから節儉の村風を通して、翁の影響がいかに広く深く滲透しているかが読み取られるであろう。しかしまたかように翁の影響力が余りにも強いだけに、これに対する反動反撥の生じることも、集団力学上当然予想されるところであり、恰もC群がこれに該当するといえる。同じ青野でもC群は、貯蓄しないが四〇%と多く、貯蓄する者でも高々二〇%以下でもあることは、翁や私淑派に対する反撥をただ気持だけですまらず、実際に行動で示していることは興味深い。なお翁の創立した駿河銀行の株の所有についてみると、共同社関係のA群において、所有しないが一〇%と僅少である反面二、〇〇〇株以上が七〇%と他に比べて際立って多いことは、当然予想されるところであるが、特別の縁故関係のないB群で、半数以上が株を所有しているのは、翁への好意的態度や私淑の念と共に蓄えるだけではなく、金を有利に運用しようとする営利心の現われともみなし得るであろう。一方、反撥派と規定したC群で殆んど誰も株をもっていないことは、C群が必ずしも机上のものに過ぎないものではないことを実証するものである。ちなみに村の氏神の境内に、駿河銀行株二拾株を奉納すると刻した石碑があり、現在では増資で株数が増え、配当で祭祀の費用をまかない各戸への割当はないということであるが、普通には株などは鎮守の神様にはにつかわしからずなじまない、という点で、いかにもよく土地柄が出ているといえるであろう。

以上儉約貯蓄の面からみたが、勤儉思想の今一つの面である勤勉精励からみると、第三表のように青野の共同社A群は半分以上が朝五時までに起

第2表 貯 蓄 率

| 年収に対する貯蓄の% 対照群 | 0 | ～9 | 10～19 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～ | 計 |
|-------------------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| A | 0 | 0 | 33.3 | 44.5 | 11.1 | 0 | 11.1 | 100.0 |
| B | 0 | 23.1 | 23.1 | 46.1 | 0 | 7.7 | 0 | 100.0 |
| C | 40.0 | 20.0 | 40.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100.0 |
| D | 20.0 | 0 | 80.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100.0 |
| E | 12.5 | 50.0 | 25.0 | 12.5 | 0 | 0 | 0 | 100.0 |

第3表 起床時間

| 起時刻 対照群 | 3時 | 4時 | 4時半 | 5時 | 5時半 | 6時 | 6時半 | 7時以後 | 計 % |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|
| A | 10.0 | 0 | 20.0 | 20.0 | 10.0 | 40.0 | 0 | 0 | 100.0 |
| B | 0 | 0 | 7.7 | 23.1 | 15.4 | 15.4 | 23.0 | 15.4 | 100.0 |
| C | 0 | 14.3 | 0 | 42.8 | 0 | 28.6 | 14.3 | 0 | 100.0 |
| D | 0 | 0 | 0 | 25.0 | 12.5 | 25.0 | 12.5 | 25.0 | 100.0 |
| E | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14.3 | 0 | 85.7 | 100.0 |

備考：Eは1月、他は8月の調査。

き、七時以後のおそいのは皆無であり、共同社結成以来の懸命に働いて貯えるという岡野哲学がこの早起きの習慣のうちに今も生き続けているのである。反撥派のC群も、自我像で仕事の虫が首位にあるのに対応して、A群に劣らず早起きであるが、これは対抗相手に負けてなるものかという意気地の現われとも解されるであろう。B群では六時以後が半分を超えるが、これは商工自営や勤め人が多いためであろう。一方、韭山金谷では、大部分が農家であるのに五時以前が二五％に減る反面、七時以後が二五％もあるが、これは悠長な殿様ぐらしとでもいうべきか。さらに、これに関連して仕事の開始時間からみると青野のA群は七時半までが八〇％であるのに対して、金谷のD群はほぼ同数の八五％が八時以後であり、かなりの差が認められる。

ついでに酒、煙草の消費習慣の面から考察すると、青野では、酒、煙草共どの群でも大体常用が七、八〇％で余り変わらないが、金谷ではどちらも四五乃至五〇％と半数足らずと少ないことに注目されるが、このことは面接調査の際の村人の話からも感じ取られたように無駄を省いて蓄えるという殿様仕法と関係があるように思われる。一方、青野では働き抜いて蓄えるという岡野流儀が有力であるとみることができ、従って同じく禁欲といっても前近代の保守的と、資本主義的進歩的な経営原理につながるものとが区別されるべきであろう。

なお、資本主義精神、従って岡野経営理念の一要素でもある合理主

義について少しく補説する。経営者像判定項目に含まれているのは、情実縁故により規則をまげないという没心情的な合理主義であるが、他方冷厳な経済考量的な合理主義というものもあり、この面から岡野経営理念の影響を検証してみたい。アメリカで経済合理主義の実証データとして使用されているのに倣って、代表的な農業機械である動力耕耘機と田の面積との関係をしらべると、結果は第四表の通りであり、他のB、C D群では五反未満、いな三反未満の零細な田の場合でも耕耘機を導入している反面、五反以上の広い場合に

我が国における禁欲主義経営理念の一研究

第4表 田面積別耕耘機導入率(%)

| 田面積 (反) | ～2.9 | 3～4.9 | 5～ |
|------------|------|-------|-------|
| 対照群 | | | |
| A | 0 | 33.3 | 100.0 |
| B | 50.0 | 66.7 | 60.0 |
| C | 33.3 | 50.0 | — |
| D | 33.3 | 100.0 | 83.3 |

備考：非農家を除く。

未導入のままになっている事例がみられるのに対して、岡野翁との関係の深い共同社A群では、三反未満では全く導入されていない反面、五反以上では悉く導入済みであり、かくて機械の導入は、効率を考えて、耕地の広狭によって決定するという経済合理性が貫かれており、こちらあたりにも岡野経営理念の残した跡が見出されるであろう。なおA群で三反以上から五反未満で耕耘機が導入されている事例は、同じく共同社系でありながら、岡野翁からは少しも感銘を受けないという例外的なものであることを附言しておく。今一つ農業機械に関連して附記すると青野では、どこでもどの農業機械でもすべて個人持であったが、発志院では、さすがに耕耘機では稀であるが、コンバインを初め田植機械などでは共同持がかなりあったが、ここには人一倍はげしい競争に生き抜く勤儉村と長年協同・相互扶助の旗の下に歩んできた産業組合村との相異なる雰囲気の端的な現われが看取されるであろう。

(三) 岡野経営理念の宗教的基盤の検証

最後に、さきに言反した岡野翁の経営理念と宗教信仰とのつながりの問題について、調査データを援用して吟味を試みてみる。公平にみてもいわゆる資本主義精神と一致するとみなし得る岡野経営理念が、西洋におけるようにキリスト教、特に新教の一派とのつながりのないことは確かであるが、しかしいかなる意味においても宗教信仰と関係がないかどうかということが問題の要点である。そこには儒教仏教の体系的な倫理教理ではないとしても、広い意味での宗教信仰といったものが機能していると私なりに考えるが、この想定の可否を検証するためにデータに当たってみる。先ずあなたは両親、祖父母から神仏を敬うように教えられましたかの問いに対する回答が手がかりになる。青野の共同社A群はよく教えられたが六〇%でこれにかなりを加えると八〇%と多く、他を大きく引き離していることに注目されるが、これから共同社関係の家には父祖から子孫へと世々神仏崇敬の念を語り継ごうとする家風のあることが明かにされる。これに関連して、あなたは神仏を信じるのが大切な、それとも人間同志が信じ合うことが大切だと思いますかについては、神仏が大切というのではA群は四〇%足らずのB群以外の他の群とは余り違わず、以上でみたところと矛盾するようにも考えられる。神仏信仰と人間信頼そのいずれかは、人々の生来の性質やおかれた境遇環境の如何によりきまり、必ずしも父祖の教えだけによるものではない筈であり、従ってC群の場合のように、父祖からよく教えられたが三〇%にも達しないのに、神仏信仰の方が大切というのが四三%もあるということにもなる。かような観点から極く大まかにいうならば、他の人々では、神仏信

第1図 宗教経済尺度のスケログラム

| 事例数 | 神仏崇敬の親の教え | 道楽をやめ家を建てる | 神仏の方が大切 | 規則をまげない | 金儲け | 借金 | 投資 | 標識 |
|-----|-----------|------------|---------|---------|-----|----|----|----|
| 1 | + | + | + | + | + | + | + | + |
| 2 | + | + | - | + | + | - | - | - |
| 3 | + | + | + | + | - | - | - | - |
| 4 | + | + | + | - | - | - | - | - |
| 5 | + | + | - | - | - | + | - | - |
| 6 | - | - | - | + | - | - | - | - |
| 3 | - | - | - | - | - | - | - | - |

備考：+は肯定、-は否定又は不定の態度。

えが基盤になり、この上に神仏信仰の尊重を初めとして、勤儉、さらには営利観念さえ現じるのであり、従って、共同社、間接にはその本源たる岡野経営理念には、村内の無縁仏や物故行員に対する手厚い供養からもよみとられるが、体系的な宗教教理ではなくとも、広い意味での宗教信仰の要素を内包するものと考えられるようになる。

今、この想定を検証するために、標識として(一)神仏を敬うことを両親祖父母から教えられる、(二)遠慮なく金を儲ける、(三)金をためるだけではなく、有利な事業に投資する、(四)趣味道楽をやめ、節約した金を家の建築などに廻す、(五)親戚や友人の情にひかれて、規則をまげない、(六)有利であるなら、自分の金だけでやるのではなく、借金も辞さない、(七)人間同志信じ合うよりも神仏を信じる方が大切な七つを選び、尺度分析にかけると、再生係数〇・九六で一次元性が確認され、従ってこれらの諸要素の間には内的斉合性のあることが検証される。第一図宗教経済尺度のソシオグラ

我が国における禁欲主義経営理念の一研究

仰の尊重と父祖からの教えとは余り関連がないかと思われるのに対して、青野の共同社の人々では、神仏信仰は父祖の教えとかなりの関連があり、これを基盤とするものと解せられる。かくて同じ神仏信仰といっても、共同社のものは世々父祖から子孫へ語り継がれるという点で、他とは異なる特色があり、そして、この父祖相伝の教

第5表 生活分野別村人の認める岡野翁からの影響

| 分野 | 仕事 | | | くらし | | | 子供の教育 | | | 村人との付き合い | | | 人生観 | | | 信仰 | | |
|----|------|-------------|-------|------|-------------|-------|-------|-------------|-------|----------|-------------|-------|------|-------------|-------|------|-------------|-------|
| | あり | なし 分からない | 計 | あり | なし 分からない | 計 | あり | なし 分からない | 計 | あり | なし 分からない | 計 | あり | なし 分からない | 計 | あり | なし 分からない | 計 |
| A | 40.0 | 60.0 | 100.0 | 80.0 | 20.0 | 100.0 | 40.0 | 60.0 | 100.0 | 20.0 | 80.0 | 100.0 | 30.0 | 70.0 | 100.0 | 50.0 | 50.0 | 100.0 |
| B | 46.7 | 53.3 | 100.0 | 53.3 | 46.7 | 100.0 | 33.3 | 66.7 | 100.0 | 26.7 | 73.3 | 100.0 | 33.3 | 66.7 | 100.0 | 20.0 | 80.0 | 100.0 |
| C | 0 | 100.0 | 100.0 | 14.3 | 85.5 | 100.0 | 14.3 | 85.7 | 100.0 | 14.3 | 85.7 | 100.0 | 0 | 100.0 | 100.0 | 14.3 | 85.7 | 100.0 |
| E | 50.0 | 50.0 | 100.0 | 25.0 | 75.0 | 100.0 | 0 | 100.0 | 100.0 | 25.0 | 75.0 | 100.0 | 37.5 | 62.5 | 100.0 | 0 | 100.0 | 100.0 |

備考：Eでは越智翁の影響

ムから読みとられることは、父祖相伝の神仏崇敬の教えが基盤になり、先ず勤
 儉思想から初まり、神仏信仰の尊重を経て、事情の如何によっては普遍合理主
 義、さらには、営利観念が生ずることである。営利観念と関係のある事
 情としては家業が農業から商工業に変わり、或はこれを兼ねることなどが考え
 られる。また、村人自身が、仕事、くらし、人生観等生活のどの面、分野で翁か
 ら影響を受けたと考えるかについての調査データが岡野経営理念の宗教的要素
 の今一つの検証資料となる。第五表をみると、翁から影響を受けた生活分野が
 くらしというのが他に際立っていることに気づかれるが、これは、翁の経営哲
 学の特質たる勤儉生活とのつながりからみて当然といえる。残りの分野では、
 比較対照の発志院で皆無でさえある信仰の面が仕事、子供の育成や人生観と遜
 色のないことに注目されるが、このことは影響の源泉が精神家ではなく、実業家
 であることを考える、と普通尋常でないという点で、翁の経営理念に特異な信
 仰的要素を示唆するものといえるであろう。

(四) 理論枠AGILによる分析

もともとその実証的研究への適用が意図されてもいるパーソンズの理論的概
 念枠組を使用して、発志院を除く、比較対照群の特徴づけを試みる。今、
 もし比較対照群私淑派反撥派、金谷及び共同社がそれぞれパーソンズの機能次
 元・位相枠AGIL^⑤に比定されるとしたならば、自我像による操作概念化がな
 された場合のそれぞれの次元位相の主要組成型変数^⑥普遍主義・限定、感情主義

第6表 理論枠AGILによる比較対照群の特徴づけとその検証

| 対照群 | 理論次元 | 型変数 指標 (自我像) 組成型変数 (副) | 普遍主義・ 特殊主義 | 感情主義・ 没感情主義 | 拡散・限定 | 遂行・属性 |
|-----|------|------------------------------------|---------------|----------------|------------------|--------------------------|
| | | | 情実により規則をまげない | 争いを辞さない | 人の意見により自分の考えを変える | 仕事の虫になり、年功による重んじ、成績を重んじる |
| 私淑派 | A | 普遍主義・限定 (没感情主義・遂行) | 43.8 | 25.0 | 31.3 | 67.9 |
| 反撥派 | G | 感情主義・遂行 (特殊主義・限定) | 33.3 | 42.9 | 14.3 | 91.7 |
| 金谷 | I | 特殊主義・拡散 (感情主義・属性) | 0.0 | 45.5 | 54.5 | 72.7 |
| 共同社 | L | 没感情主義・属性 (普遍主義・拡散) | 50.0 | 30.0 | 60.0 | 55.0 |

備考：数字は肯定の％、遂行・属性では2指標の平均。

・遂行、特殊主義・拡散及び没感情主義・属性に対応する指標からみても、各群は同じように弁別さるべき筈であるが、結果は第六表のように私淑派は普遍主義の指標である規則をまげないは約四四％で比較的多い一方、拡散に対応する人の意見を聞いて、自分の考えを変えるは三一％で少ない方であり、反撥派は、感情主義の争いを辞さないは約四三％と多く、遂行の仕事の虫となって働く、経験より成績を重んじるとの平均は約九二％と最高、金谷は規則をまげないは零と最低である反面、自分の考えを変えるは約五五％と多く、共同社は争いを辞さないは三〇％で少なく、遂行の指標得点も五五％で、最低であり、一応副型変数を考慮の外においた場合、ほぼ想定が検証される。何分限られた資料のため、その一般化には問題があるとしても、パーソンズの理論枠組の有効性が実証されると共に、各比較対照群の特徴づけが一般理論的にもなされ、また、ここでは詳述しないが副型変数をも考慮した場合、安定した共同社に対する不安定な状況にある金谷というような見過ごされ易い面も明かになり、データの分析上示唆されるところが少なくない。

注

- (1) 金谷で、江川家の銅像を建てたいという、村人の望みが聴き容れて貰えないという話を聞いたが、中世以来の長い年輪の殿様はさすがと感じ入ったことである。
- (2) Raymond W. Mack, *The Protestant Ethic, American Sociological Review*, June 1956.
- (3) 以前試みた産業組合の社会学的考察の中で、これに言及したことがある。『農村団体の規模、性質と其の統制』、「産業組合」、第三九四号、昭和十三年。
- (4) Talcott Parsons, *Working Papers in the Theory of Action*, 1953, p. 108. 昨秋来日中のパーソンズ氏にお尋ねしたところ、この方面のことをやっている人もおられるということであった。
- (5) 「, op. cit., p. 182.
- (6) 「, *Toward a General Theory of Action*, 1951, pp. 76—88.